

II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

1 国語

(1) 正答率

問 題	配 点	正 答		一部正答		誤 答		無 答		通 過 率 率 = $\frac{\text{得点計}}{\text{人数} \times \text{配点}}$ (%)	
		数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)	数	率 (%)		
1	問 1	4	340	80.4	0	0.0	81	19.1	2	0.5	80.4
	問 2	6	184	43.5	148	35.0	63	14.9	28	6.6	63.2
	問 3	4	324	76.6	0	0.0	98	23.2	1	0.2	76.6
	問 4	7	134	31.7	151	35.7	71	16.8	67	15.8	52.5
	問 5	5	198	46.8	0	0.0	220	52.0	5	1.2	46.8
2	問 1 (1)	2	318	75.2	0	0.0	92	21.7	13	3.1	75.2
	問 1 (2)	2	240	56.7	0	0.0	160	37.8	23	5.4	56.7
	問 1 (3)	2	399	94.3	0	0.0	21	5.0	3	0.7	94.3
	問 1 (4)	2	342	80.9	0	0.0	57	13.5	24	5.7	80.9
	問 1 (5)	2	286	67.6	0	0.0	86	20.3	51	12.1	67.6
	問 2	3	246	58.2	0	0.0	176	41.6	1	0.2	58.2
	問 3	3	308	72.8	0	0.0	115	27.2	0	0.0	72.8
	問 4 (1)	3	299	70.7	0	0.0	88	20.8	36	8.5	70.7
	問 4 (2)	3	253	59.8	0	0.0	166	39.2	4	0.9	59.8
	問 4 (3)	2	116	27.4	1	0.2	169	40.0	137	32.4	27.5
3	問 1	4	257	60.8	0	0.0	164	38.8	2	0.5	60.8
	問 2	4	258	61.0	0	0.0	164	38.8	1	0.2	61.0
	問 3	6	149	35.2	163	38.5	59	13.9	52	12.3	56.9
	問 4	5	205	48.5	36	8.5	173	40.9	9	2.1	52.9
	問 5	7	14	3.3	105	24.8	130	30.7	174	41.1	14.9
4	問 1	3	224	53.0	4	0.9	185	43.7	10	2.4	53.4
	問 2	3	93	22.0	22	5.2	222	52.5	86	20.3	24.7
	問 3	3	182	43.0	0	0.0	234	55.3	7	1.7	43.0
	問 4	3	201	47.5	51	12.1	158	37.4	13	3.1	53.9
5	12	46	10.9	353	83.5	10	2.4	13	3.1	61.2	

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

- 1 出典は三川みり著『君と読む場所』である。問題文に使用した箇所は、中学生の鈴木有季と森田麻友の二人が、知人である読者家の老人七曲直の家を訪れた場面である。主に中学生の有季の視点で描かれており、地域の図書館での職業体験での人間模様など、受検生が共感しやすい題材である。また、心情表現豊かに描かれており、受検生の国語の力を多角的に判断する資料文としてふさわしいと考えられる。
- 2 漢字の読み書き、文の成分、二字熟語（語句の意味）、文章の基本的な構成や推敲（手紙の書き方）、話し合いの場面における発言について答える問題である。
- 3 出典は松村圭一郎ら編著『文化人類学の思考法』である。問題文に使用した箇所は、「1 自然と知識—環境をどうとらえるか？ [中空萌執筆]」の部分である。文化人類学では、自然環境を実際に身近で起こっている具体的な種間の緊迫した関係として捉えているということが述べられている。また、専門的な用語を多用せず平易な言葉で書かれており、受検生が多様な価値観に触れることで視野を広げ、考えを深めることができる教材であると考えられる。
- 4 出典は『無名草子』である。『無名草子』は、鎌倉時代初期に成立したとされる評論である。問題文に使用したのは、『源氏物語』成立に関する二つの逸話が書かれている箇所である。宮中において上東門院が紫式部に『源氏物語』を書かせたという話と、宮仕えをしないで自宅にいた折に、『源氏物語』を書いたことで紫式部という名前が付けられたという話に続いて、この2つの話のどちらが本当だろうかということが書かれている。
- 5 資料は、埼玉県『平成30年度埼玉県政世論調査報告書』における「埼玉県に魅力を感じるか」の項目をもとに作成された棒グラフである。県内在住者を対象に調査した資料をもとに、「地域の魅力」についての自分の考えが相手に効果的に伝わるよう、自己の体験をふまえて、展開を工夫して書く力をみようとした。

(3) 所見・解説

1 文学的な文章を理解する力をみようとした問題である。

- 問1 場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容を正確に理解する力をみる問題である。傍線部の後ろにある「そんなことを七曲に言っても、意味がない気がしたのだ。」「(じゃあ、どうすればいいんだろう。)」といった表現などから、有季が七曲への適切な言葉を探せずに不安を抱えていることがうかがえる。これらの読み取りと合致した**エ**を選ぶ。
- 問2 登場人物の心情を読み取り、適切に表現する力をみる問題である。有季の考える七曲の「真剣な怒り」については、次のような表現から読み取ることができる。「七曲は怒っているのではなく、どちらかといえばショックを受けているのだ。」「裏切られたような気がしたに違いない。図書館職員でさえ、簡単に本を捨てるのかと。」「これらの表現から因果関係を整理して、有季の考える七曲の様子を指示された字数と文脈に合うようにまとめる。誤答としては、七曲の「裏切られた」といった心情について触れていないものなどがみられた。
- 問3 登場人物の描写に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題である。傍線部は、有季の河尻に対する考えを表したものである。そこで、有季が河尻に対して「好きこのんで廃棄するわけじゃなくて、やむを得ずなんです。本を捨てることに、すごく罪悪感があるって。」や「本当は、本を選んで廃棄することもしたくないし、新しい本だって出版されただけ全部図書館に入りたいのに、できないから。」などと発言していることから選択肢**イ**を選ぶ。
- 問4 登場人物の言動の意味を的確にとらえ、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。有季の心情について読み取り、指示された語句を用いて登場人物の関係を整理してまとめる。心情については、傍線部の後ろに「言葉が、本の力を借りて、腹を立てている七曲にも届いたのだ。(僕の言葉が届いた。) 嬉しかった。」「そして本の力を借りたにせよ、七曲の心に言葉を届けられた自分が誇らしかった。」などとあり、これらの内容をふまえて、指示された字数と文脈に合うようにまとめる。誤答としては、登場人物の関係を記す際に、七曲の河尻への誤解とするところを、有季から七曲への誤解とするなど、対象を取り違えたものがみられた。
- 問5 表現上の工夫に注意して読み、内容を的確にとらえる力をみる問題である。本文の表現効果について読み取り、選択肢を選ぶ。選択肢**ア**について、本文には「図書館の情景」が描かれていない。本文の表現効果について読み取り、選択肢**ア**を選ぶ。

2 基礎的・基本的な言語能力をみようとした問題である。

- 問1 基本的な漢字の読み書きについての問題である。(2)「眺望」は、様々な誤答がみられた。「がんぼう」「とうぼう」など「眺」の読み誤りが多かった。(5)「熟れる」は、「売れる」や「熱れる」と書いたものや、点画が足りないものなど誤答が多岐に渡っており、語彙として定着していない傾向がみられる。漢字の学習の際には、単なる漢字の書き取りだけでなく、様々な文や文章に触れることで語彙を増やしていくなどの学習の工夫が必要である。
- 問2 文と文の関係(主・述の関係)についての理解を問う問題で、正答は**ウ**である。**エ**とする誤答が多くみられた。文章を読む際には、主・述の関係や修飾・被修飾の関係など、基本となる言葉の特徴やきまりを押さえることも大切である。
- 問3 二字熟語についての理解を問う問題で、正答は**イ**「潮時」である。熟語(慣用句等)の学習においては、言葉の本来の意味や由来などに触れたり、実際にその言葉を使って文章を書いたりしながら、文脈の中で適切に用いることを意識する必要がある。
- 問4 (1)及び(3)は基本的な文章の構成及び推敲(手紙の書き方)の問題である。(1)は、【お礼の手紙の原稿】の中から、文末表現に注目して訂正が必要な箇所を探す。各文末を見てみると、敬体で書かれている中に一箇所だけ常体の「いただいた。」があるので書き改める。(2)は、会話文から話し合いの話題や方向を読み取る問題である。傍線部の発言は、Aさんの「では、他にありますか。」の発言に続くもので、この発言は手紙の推敲を行う上でよりよい方向に訂正しようとするものである。よって、正答は**エ**である。互いの考えを生かしながら話し合う学習活動などを通じて、話すこと・聞くことについても普段から意識することが大切である。(3)は、手紙の書き方の基本である頭語「拝啓」に対応する結語「敬具」を答える。手紙の書き方に限らず、日頃の学習活動において文章の構成や推敲を実際に行いながら、定着を図ることが大切である。

3 説明的な文章を理解する力をみようとした問題である。

- 問1 文章に書かれている内容を正しく読み取り、理解する力をみる問題である。傍線部「日本語の『自然』ということば」の前後に着目する。例えば、次のような表現がある。「明治以前には、自然という語は『おのずからそうなっているさま、天然のままで人為の加わらぬさま』という意味で用いられていた。」「古典的な自然の意味は、『人為』と対置されているという意味で nature と共通している。この共通点ゆえにこの語が翻訳語として選ばれた。」「日本語の『自然』はもともと副詞や形容詞として使われ、人為の加わらない『状態』を示していた。つまり、名詞として自然環境そのものを表すようなことばではなかった。」これらの内容に即した選択肢である**ウ**を選ぶ。

- 問2 文章の構成や展開の仕方をとらえ、内容を正確に理解する力をみる問題である。空欄の直前「こうした視点」とは、「人間と動物のあいだに魂の連続性を見る人たちの立場からは、動物は身体のやりとりをつうじて人間と『ともに生きる』存在であり行為主体」という、文化人類学の視点のことである。ただし、空欄を含む文は、「～ではなく」と続くので、解答は本文の主旨である文化人類学の視点にあてはまらないものを選ぶ必要がある。これらの内容に合致する選択肢**ア**を選ぶ。
- 問3 文章の構成や展開に注意して内容を理解し、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。本文中に着目すると「同族となって彼ら(トナカイ)を惹きつけようとする」や「完全にトナカイに変身してしまうと、人間に戻れなくなってしまう」とあり、ユカギールの狩猟採集民の行動や考え方の一端がうかがえる。さらに、「たとえばシベリアのユカギールの狩猟採集民の世界では、人、動物、モノは魂を備え、同じ理性的能力をもつ。それぞれが異なって思考するのは、種ごとに固有の身体をもっているためだ。」とある。こうした記述から、ユカギールの狩猟採集民の考え方を読み取り、指示された字数と文脈に合わせて解答する。
- 問4 文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容を正確に理解する力をみる問題である。都市生活のなかの自然の具体例について、筆者の主張にあてはまらないものを選ぶ。本文では、「自然についての体系化された知識」とはあるが、選択肢**ア**にある「インターネットで調べる」とは、述べられていない。また、人類学的な考え方として「一つの自然を守る『地球市民』ではなく、『私たちの自然を守ろう』といった抽象的な環境主義のスローガンを超え」とあり、選択肢**エ**とは一致しない。よって、これらの内容から、選択肢**ア**と**エ**を選ぶ。
- 問5 文章全体と部分との関係をとらえ、条件に応じて適切に表現する力をみる問題である。本文の主旨である、人類学の与えてくれるあらたな視角について、本文の内容に即し、指示された文脈と字数で説明する。「人類学」が、私たちにどのような視角を与えてくれるかということと、指示されている「普遍的」「具体的」の2つの言葉の両方に着目する。
- まず、「普遍的」という言葉は、本文中においては、次の記述のみである。「(人類学は、)『(人間の外側にある)自然と(人間のつくりだした)文化』という分け方自体が、西洋の文化が構築したものであって、普遍的なものではないということを示していった。」
- 続いて、「具体的」という言葉は、本文中にいくつかあるが、傍線部の直前には「つねに具体的な自然と人間、種間の関係に注目してきた人類学の研究」が、「あらたな視角を与えてくれる」とある。
- この「あらたな視角」については「そうした視点は、～私たちと多様な存在の緊迫した関係をもクローズアップする。」とあり、傍線部の直前にも『自然との共存』は、「私たち自身の生存にかかわる他種との緊迫した関係」とある。これらの内容をふまえて、指示された字数と文脈に合うようにまとめる。

4 古典を理解する基本的な力をみようとした問題である。

- 問1 歴史的仮名遣いについての理解をみる問題で、正答は「いうひとはべれば」である。誤答としては、「いうひとわべれば」や「いふひとわべれば」などが多くみられた。文語のきまりを正確に理解するとともに、古文を音読し、古典特有のリズムを味わいながら古典の世界に触れることが大切である。
- 問2 文章に書かれている内容を、叙述に基づいて的確にとらえる力をみる問題である。正答は「適したものはない」であるが、誤答としては、「源氏物語を作った」「作れと言われた」や本文中からそのまま抜き出した「作り出でたる」など、文脈から内容を正しく読み取れなかったことに起因するものが多かった。文章の展開に即し、丁寧に読んでいく力をつける必要がある。
- 問3 場面や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する力をみようとした。「申しければ」の主語を解答する問題で、正答は**ウ**「紫式部」である。単に古文の大意を把握するだけでなく、登場人物の関係を意識しながら読むことが求められる。
- 問4 古典に表れたものの見方や考え方をとらえ、内容を理解する力をみる問題である。正答は**イ**「『源氏物語』を書いたことで宮中に召された女性が、紫式部と呼ばれたこと」と**オ**「紫式部が、上東門院の求めに応じて『源氏物語』を書いたということ」である。誤答では、**ア**の「作者が、紫式部の書いた『源氏物語』に高い評価を与えているということ」を選んだものが多かった。古典に表れたものの見方や考え方を知らるために、叙述に即して丁寧に読んでいくことが大切である。

5 資料から読み取ったことをもとに、「地域の魅力」についての自分の考えを、構成を工夫しながら、自らの体験をふまえて書く力をみようとした問題である。資料は、『平成30年度埼玉県政世論調査報告書』より作成したものである。誤答としては、自らの体験を書いていないもの、資料から読み取ったことだけを書いているものが多かった。また、指定された二段落構成となっていないもの、誤字・脱字や接続詞の使い方に誤りのあるもの、文章としてのまとまりを欠くものなどがみられた。資料から情報を正確に読み取り、目的に応じて相手に伝わる文章を書くことができるように普段から意識して学習する必要がある。